地方独立行政法人香取おみがわ医療センター
Katori Omigawa Medical Center
No.09

ホスピタルストリート

Hospital Street 2024

血液浄化センター患者送迎サービス開始

安心して透析治療を継続していただくために

5月13日から、香取市在住の血液浄化センター利用者に対する通院送迎サービスを開始しました。

安心して透析治療を継続していただくために、病院の専用車両にて送迎を行います。透析治療を受ける患者さんの通院やご家族の送迎の負担を軽減し、治療を継続できるようサポートします。

編　集　地方独立行政法人香取おみがわ医療センター　経営企画室
発行日　令和6年6月1日（年4回発行）

血液浄化センター

命をずっと支え

血液浄化センターの概要

内科部長
井上 雅裕

血液浄化センター
●透析ベッド数：25床（うち個室2床）、病棟2床
●午前・午後クール：午前8時～、午後1時30分～（月～土）
●医療スタッフ：医師、看護師、臨床工学技士、看護補助員

血液浄化センターは、当医療センターの前身である国保小見川総合病院において、平成16年に19床から開始し、令和元年の病院新築に合わせて25床に増床しました。1階で南向きの室内は明るく、長時間の治療でも不快とならないよう、空調の風や音にも配慮した治療環境となっています。血液浄化センターでは、透析専門医、看護師、臨床工学技士、リハビリテーションスタッフ、管理栄養士等が患者さんの対応を行います。また、病院であるため多くの診療科やカテーテル治療室を有する特長を活かし、病態に合わせた治療を提供するとともに、当医療センターにおいて治療を継続しやすい体制を整えています。

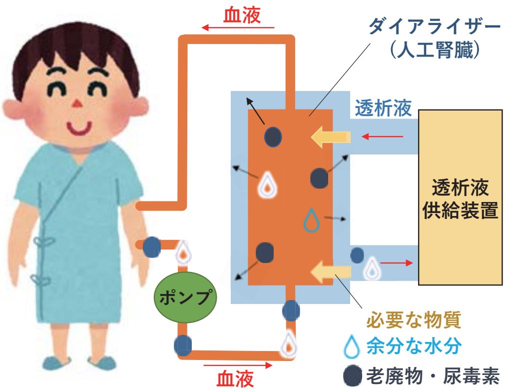
5月から、患者さんやご家族の負担を軽減するために、通院送迎サービスを開始しました。今後もスタッフ一同、地域の皆様の医療に貢献していきたいと考えています。

血液透析とは

臨床工学科　副科長
小酒井 唯起

血液透析は、腎臓機能の代替療法の一つです。腎臓には、体の余分な水分や老廃物を血液から除去して、電解質のバランスを取る役割があります。尿の量が減ったり、血液検査で腎臓機能が悪くなったりした場合に、血液を適正に整える治療法です。ダイアライザーと呼ばれる人工腎臓により、体の余分な水分や老廃物を血液から取り除きます。

血液透析は、24時間365日働き続ける腎臓の代わりに、週に3回程度治療を行うことにより腎臓の役割の一部を担っています。



血液透析にはシャント管理が大切

患者さんが血液透析を始める際には、できるだけ不安がないように医療スタッフがサポートします。血液透析を始めるには、治療に必要な血液流量を確保するため、「シャント」という血管を腕などに作成する手術が必要です。

手術後はシャントの状態を見ながら治療を開始し、定期的にシャントの状態をエコー等で確認しながら、血液が詰まることがないよう早期の対応に心がけ、透析治療が継続できるよう努めています。

血液透析の「質」は、水にあり

臨床工学科　科長
木戸岡 智志

臨床工学技士は、透析装置のメンテナンスを計画的に行い、安全で確実な治療が行えるよう努めています。透析治療には多くの水（透析液）が必要です。1回の透析治療で120～150リットル使用される透析液は、治療の「質」に大きな影響を与えます。透析液は院内で水と透析剤を混ぜて作成されるため、良い透析液を作成するためには「水」の管理が重要となります。当医療センターでは、極めて高純度な水の精製に加え、配管や装置内のクリーン化を徹底し、透析剤については最も新しい製品を使用しています。透析治療において、血液浄化センターでは、「水（透析液）」にこだわり、日々患者さんの治療にあたっています。

る、ケアと技術

患者さんそれぞれに合わせた血液透析を大切に

医師
湯本 久雄
日本泌尿器科学会専門医
日本透析医学会専門医

本来であれば尿として捨てられなければならない尿毒素や水分を、透析装置を使って取り除くのが血液透析です。腎臓には、尿毒素の排出以外にも様々な働きがあります。1回の治療で取り除くことができる尿毒素や水分には限界があるため、「薬」で調節したり、日常生活の中で「自己管理」しなければならない部分があります。体調の変化や、加齢による食事量や運動量の減少から体力が落ちてしまうこともあります。腎臓機能が悪くなった状態でも、元気な日常生活を送れるように身体のメンテナンスをしていくのが透析療法の目的です。

血液浄化センターでは、患者さんそれぞれの状態に合わせて、身体に優しくかつ必要十分な血液透析（至適透析）を行い、適宜治療中にリハビリテーションも組み込んでいます。また、日常生活の中でどうしても調整がうまくいかなくなった時には、短期間の入院も取り入れています。

多くの外来診療科がある血液透析施設の役割

透析看護科　看護師長
菅谷 小百合

血液浄化センターでは、「透析患者が通い慣れた病院に自力通院するために、合併症予防の自己管理ができる」を看護方針としています。当医療センターには多くの外来診療科があり、各科の専門医師との連携が容易なことから、透析以外の治療が必要となった場合には、該当科の外来診療や入院治療と並行して透析治療を継続できます。また、シャントの管理は、シャント手術からカテーテルによる治療まで行っており、シャントに問題があった場合には、速やかに検査・治療を行うことが可能です。

「香取おみがわ医療センターに来てよかった」と言っていただくため、スタッフ一同が患者さんの思いに寄り添い、多職種、地域、福祉と協働した看護を提供します。

患者さんが元気に生活するために

透析看護科
木村 仁美

看護師は、患者さんが元気に生活し、通院できるように支援を行っています。

一つ目はフットケアです。透析患者さんは足の血管が詰まるリスクが高いため、毎月必ずフットチェックを行っています。問診・視診・触診や血流量を測定して、必要時には医師に診察を依頼したりケアを行ったりと、異常の早期発見に心がけています。

二つ目は、透析患者さんの生命予後やQOL（生活の質）を改善させるため、栄養管理とリハビリテーションを行っています。透析治療中に、管理栄養士から食事指導を受けることができ、また理学療法士と連携して運動をサポートしています。

しっかり食べて、適度な運動でより元気に生活することを目標に、多職種で対応しています。

救急医療を適正に利用しましょう。

救急医療の受診について、お知らせします。

令和6年4月からの「医師の働き方改革」に伴い、医師の労働環境や健康管理がより重視されるようになりました。この取組みは、医療の質を維持し、患者さんへの適切な医療を提供するためには欠かせないものと考えています。

休日や夜間の救急医療は、緊急を要する人のためにありますので、それ以外の方は通常の診療時間内に受診してください。救急受診が必要な場合でも、できるだけ平日日中の受診をお願いします。これにより、休日や夜間の救急医療における医師の負担を軽減し、より円滑な医療提供が可能となります。

また、平日日中に受診することにより、検査や診察などの医療を迅速かつ適切に行うことができます。その結果、医療の効率化が図られ、より良い医療サービスを提供できるものと考えます。

皆様の健康を守るためにも、救急医療の適正な受診にご協力ください。

新着情報

◆「個別栄養指導」がスタートしました

令和6年4月から、地域医療連携の一環として「連携栄養指導」を行っています。周辺地域の医療機関からご依頼を受け、当医療センターの管理栄養士がマンツーマンで実施します。栄養指導をご希望の方は、ホームページをご確認の上、かかりつけ医にてお申し込みください。

職員紹介（常勤医師、事務部長）

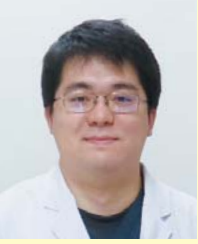
スポットライト

眼科医長

大内 夢衣花

眼科専門医

4月から眼科の診療に携わらせていただく大内夢衣花（おおうちゆいか）と申します。北海道から引越してきました。白内障手術を中心に緑内障・網膜疾患・アレルギーなど眼科全般を診察します。視機能は生活と密接しているため、病気の早期発見と早期治療が重要です。少しでも見えにくいと思ったらお気軽に受診してください。趣味は野鳥観察・インコの飼育やゲーム、プラモデルです。どうぞよろしくお願い申し上げます。



専攻医

武田 歩

消化器内科

4月から香取おみがわ医療センターで勤務させていただくことになりました、武田歩（たけだあゆむ）と申します。令和3年に獨協医科大学を卒業後、同大学病院で初期研修を行い、令和5年4月に獨協医科大学内科学（消化器）講座に入局いたしました。現在、後期研修医として日々研鑽を積んでおります。若輩者ゆえ至らぬ点も多々ありますが、患者さん一人ひとりに寄り添えるよう一生懸命頑張ります。どうぞよろしくお願いいたします。

事務部長

村田 佳宏

新たなスタートを向かえ、気持ち新たに、より良い職場環境づくりの取組みは、より良い地域医療貢献にも繋がるものと考えます。医療センター職員とともに、安心して来院いただけるようサービスの向上に努めて参ります。今後ともご理解、ご協力をお願いします。

地方独立行政法人
香取おみがわ医療センター
TEL 0478-82-3161（代表） FAX 0478-83-3032
〒289-0332 千葉県香取市南原地新田438番地1

休 診 日 土曜・日曜・祝日・年末年始
診療受付 平日8時から（予約が必要な診療もあります）
診療科により診療時間は異なりますので、詳しくはホームページ等でご確認ください。
https://www.hospital.omigawa.chiba.jp